

わが国では平成から令和に移行してわずか3カ月目であるが、世間では日産・ルノーの軋轢、米国トランプ大統領の訪日騒ぎ、幼い子供を巡る殺伐とした事故・事件も相次いで報道されている。世界ではEUからの離脱を巡る英国の逃走、米中の貿易戦争、米朝会談の暗雲、天安門事件30周年に続く香港での「逃亡犯引き渡し条例」を巡る大規模デモ、…etc.と退屈する暇がない毎日である。このような時代にあっても疾病はお構いなしであり、今更ながら日日の対応に迫られて居られる諸兄・諸姉には頭が下がる。

さて今月号では「既存のガイドラインを透析患者にどう活用するか」の特集をお送りする。Evidenceに基づく標準的治療法が推奨される時代となつて久しい。そのため各種の疾患や病態に対し

て、関連学術団体から各種のガイドライン（GL）が提示されている。しかし多くの場合、これらのGLは一般住民を対象としており、CKD・透析患者を想定したものはきわめて少ない。そのため、われわれが眼前のCKD・透析患者に対してGLに準じた治療を計画しても、必ずしも記載のままに準用してよいのかに疑問が生じる場合は少なくない。そのような場面に遭遇した際に、CKD・透析患者では既存のGLをどのように読み替えるべきか、注意すべき点は何かなどを…それらの疾患や病態に精通した諸先生に記載していただいた。当初の企画に沿った出来映えになったと自負している。日常の臨床に広く活用されることを期待したい。

（鈴木正司）

## 2019年（Vol. 35）特集のご案内

- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| No.① 透析患者の糖尿病管理の新展開              | No.⑦ CKD患者におけるがん化学療法             |
| No.② 透析患者における電解質・酸塩基平衡異常—透析液を含めて | —透析患者を中心に〔増刊号〕                   |
| No.③ 慢性腎臓病の看護実践をリフレクションする        | No.⑧ 既存のガイドラインを透析患者にどう活用するか      |
| No.④ 透析患者の残腎機能                   | No. 9 標準血液透析を再考する—最良の透析処方・管理技術とは |
| No.⑤ 透析医工学の最前線                   | No.10 在宅透析療法の勧め—QOLおよび生命予後改善のために |
| No.⑥ AKI診療のエビデンスと課題              |                                  |

（既刊は○）

## 臨牀透析® Vol.35 No.8

© 2019年7月10日発行  
定価：（本体2,600円＋税）

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也  
発行所 株式会社 日本メディカルセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル  
営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904  
編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377  
e-mail dialysis@nmckk.co.jp  
URL <http://www.nmckk.jp>  
郵便振替 00110-2-80695  
印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY®＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（☎03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

■広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 電話(03)3814-8541